

(株)かまいし DMC 事業部長が考える 「観光」「サステナビリティ」の意味

経営情報学部 事業構想学科 中庭ゼミ所属
21811249 西田 翔一 (21811249sn@tama.ac.jp)

1. 目的

本発表の目的は、三陸・釜石市における「スタディーツーリズム」「サステナブルツーリズム」の現状と可能性について、事業者の言説から調査を行った。

2. 調査方法

2019年8月6日 (株)かまいし DMC 取締役事業部長河東英宜氏へインタビューを実施した。

3. 現状

東日本大震災から8年が経ち、三陸及び釜石市の人口は減少し続けている。地域の特色を活用する民間の企業や事業者も減少しており、観光面において質や需要が落ち続けていることが分かった。

その中、(株)かまいし DMC 取締役事業部長河東氏は、釜石の地域活性化において必要な要素として、地域 DMO と呼ばれる地域マネジメントの組織体で活動を行っている。三陸・釜石内の観光（体験ツアー、里海体験など）だけでなく、釜石で生産・開発された物産の取り入れ・外への販売や、釜石市内に設立された施設管理、水産加工会社や旅行・ホテル・ツアー会社との連携を行うことにより、釜石市内のコミュニティ開発や交流・関係人口の確保を意図的に図って事業を展開している。

河東氏は元『地球の歩き方』編集長で、釜石にインバウンドのビジネスチャンスを見だし、U ターンし現在漁協にも属し活動を行っている。

4. サステナブルツーリズムの意義

サステナブルツーリズムは「持続可能な観光」という意味があり、観光客・産業・環境及び地域のニーズに満たしつつ、現在と未来における経済的・社会的・環境

的な影響に考慮した観光のことを指す。

三陸・釜石の場合のサステナブルツーリズムは、民間や事業者が観光資源の確保・アクティビティの開発を行い観光を提供し、地域経済やコミュニティの活性化、観光客・他事業者を増加させ地域内の価値を高めていくものだと考える。2018年9月、ヨーロッパで毎年開催される「世界の持続可能な観光地100選」では、日本の都市で唯一釜石が選ばれていることも分かった。

河東氏は釜石の観光資源として自然、漁師体験、自然アクティビティ・・・等を見いだしている。

河東氏の行動の意味は、自然や文化・歴史や人々の中の魅力を生かして、スタディーツアーや震災・体験学習といった観光の価値を最大限に引き出し、サステナビリティとは無縁と思われていた釜石住民に「まなざしの変化」を起こすことで、事業者・地元民・観光客にとって有意義な観光を目指していると思われる。

5. 結論

被災地の復興手段として「観光」が注目されてきたが、河東氏は、釜石を「持続可能性」の観光適地として捉えている。復興が目的なのではなく、観光地開発が目的で釜石が選択されており、両者を区別して捉えることが重要である。

<参考文献>

岩手県釜石市は持続可能な観光を実現できるのか-IDEAS FOR GOOD-社会をもっとよくする世界のアイデアマガジン (<https://ideasforgood.jp/2019/03/12/kaishi-forum/>)